

| | | | | | | | | | | | | |
|--------------------------|--|--|---|--|------|-----------------------|---------|-------|------|----|--------|---|
| 科目名 | 助産論Ⅲ(周産期ケア演習) Midwifery Ⅲ | | 担当教員 (研究室番号) | 杉山 泰子 (103) 大平 肇子 (104) 渡邊 聡子 (102) 岩田 朋美 (101) 市川 陽子 (105) 辻 まどか (105) 日置 理瑚 (105) 佐々木直哉 (非常勤) | | 教員への連絡方法 (メールアドレス) | | | | | | |
| 履修年次 | 4年次前期 | 科目区分 | 専門科目・生涯看護学 | | 選択区分 | 自由 | 単位数(時間) | 2(60) | 授業形態 | 演習 | 科目等履修生 | 否 |
| 科目目的 | 周産期にある母子とその家族の健康を支援するため、助産過程の展開に必要な知識・診断技術および助産実践に必要な基本的技術を修得する。 | | | | | | | | | | | |
| ディプロマ・ポリシー(DP) | 主要なDP | F 地域社会に暮らす人々の健康課題の解決に向けて、対象に応じた看護を提供できる。(技能・表現) | | | | | | | | | | |
| | 関連するDP | B 人々の生活に根ざした看護を実践するための幅広い教養と専門的知識を有している。(知識・理解) E 地域社会に暮らす人々の生活支援において必要となる情報を分析し、健康課題を解決するための方策を考えることができる。(思考・判断) | | | | | | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠期、分娩期、産褥期および新生児期の助産過程を展開することができる。 2. 妊娠期にある女性の健康診査・保健指導を実践することができる。 3. 分娩期の対象の身体的、心理社会的変化と適応状態を診断し、正常経過を促すケアを立案することができる。 4. 分娩介助の意義、原理および手順を述べることができる。 5. 分娩介助の基本的な技術を理解し、実践することができる。 6. 産褥期にある女性の健康診査・保健指導・ケアを実践することができる。 7. 新生児期にある対象の健康診査・ケアを実践することができる。 8. 乳児期の健康診査および母親への保健指導を説明することができる。 | | | | | | | | | | | |
| 成績評価方法(基準) | 筆記試験(40%)、分娩介助の技術試験(20%)、助産過程の展開の取り組み(20%)、技術演習の取り組み(20%) ※筆記試験および分娩介助の技術試験については、各試験の60%以上の得点を合格とする。 | | | | | | | | | | | |
| 再試験の有無と基準等 | 無：筆記試験、ならびに複数回の技術試験、演習課題および演習への取り組みにより評価するため、科目の合否結果で不合格となった場合、再試験は実施しない。 | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | 助産論Ⅱで指定した教科書、助産業務ガイドライン2024(日本助産師会出版) 助産師のためのフィジカルイグザミネーション 第2版(医学書院) 日本版救急蘇生ガイドライン2025に基づく新生児蘇生法テキスト第5版(メジカルビュー社) | | | | | | | | | | | |
| 参考書等 | 助産学講座1~10(医学書院) 新版 助産師業務要覧 第4版Ⅰ基礎編・Ⅱ実践編・Ⅲアドバンス編(日本看護協会出版会) | | | | | | | | | | | |
| 学生の主体性を伸ばすための教育方法と学生への期待 | 助産師として必要な診断技術や分娩介助技術、保健指導の演習が中心です。特に分娩介助技術は母児の健康や出産体験に直接影響をおよぼす技術です。母児の安全を最優先に考え、産婦とその家族がよりよい出産体験ができるよう、技術の習熟度を高めることが必須です。自主的・積極的な学習を期待します。 | | | | | | | | | | | |
| 備考 | 助産師国家試験受験資格取得のための必須科目です。助産論Ⅰ・Ⅱの単位を修得していることが履修の前提となります。3年次の終了時までには修得すべき授業科目の単位をすべて修得していなければ履修することはできません。 | | | | | | | | | | | |
| 回 | 学習項目 | | 学習内容 | | | | | 主担当教員 | 授業方法 | | | |
| 1回 | 助産過程の展開① | | 助産診断の理論をふまえ、妊娠褥婦および胎児・新生児とその家族に対する助産計画立案・実施・評価のプロセスについて理解する。 | | | | | 岩田 | 講義 | | | |
| 2回 | 助産過程の展開② | | 妊娠期の助産診断と助産過程の実際を学ぶ。 | | | | | 岩田 他 | 演習 | | | |
| 3回 | 助産過程の展開③ | | 分娩期の助産診断と助産過程の実際を学ぶ。 | | | | | 岩田 他 | 演習 | | | |
| 4回 | 助産過程の展開④ | | 分娩期の助産診断と助産過程の実際を学ぶ。 | | | | | 岩田 他 | 演習 | | | |
| 5回 | 助産過程の展開⑤ | | 産褥期と新生児期の助産診断と助産過程の実際を学ぶ。 | | | | | 岩田 他 | 演習 | | | |
| 6回 | 妊娠期の助産診断・技術とケア① | | フィジカルイグザミネーションにおける助産師の基本的姿勢の理解のもとに、妊婦のフィジカルイグザミネーションの基本的技術について学ぶ。 | | | | | 市川 他 | 演習 | | | |
| 7回 | 妊娠期の助産診断・技術とケア② | | 妊婦健康診査の場面を想定し、妊娠期のフィジカルイグザミネーションの一連の過程に沿って、妊婦診察の実際を学ぶ。 | | | | | 市川 他 | 演習 | | | |
| 8回 | 妊娠期の助産診断・技術とケア③ | | 妊婦を対象とした集団指導を計画し、集団指導を実践する。 | | | | | 杉山 他 | 演習 | | | |
| 9回 | 妊娠期の助産診断・技術とケア④ | | 妊婦を対象とした集団指導を計画し、集団指導を実践する。 | | | | | 杉山 他 | 演習 | | | |
| 10回 | 妊娠期の助産診断・技術とケア⑤ | | 妊婦を対象とした集団指導を計画し、集団指導を実践する。 | | | | | 杉山 他 | 演習 | | | |
| 11回 | 妊娠期の助産診断・技術とケア⑥ | | 妊婦を対象とした集団指導を計画し、集団指導を実践する。 | | | | | 杉山 他 | 演習 | | | |
| 12回 | 分娩期の助産診断・技術とケア① | | フィジカルイグザミネーションにおける助産師の基本的姿勢の理解のもとに、産婦のフィジカルイグザミネーションの基本的技術について学ぶ。 | | | | | 辻 他 | 演習 | | | |
| 13回 | 分娩期の助産診断・技術とケア② | | 産婦健康診査の場面を想定し、分娩期のフィジカルイグザミネーションの一連の過程に沿って、産婦診察の実際を学ぶ。 | | | | | 辻 他 | 演習 | | | |

| 回 | 学習項目 | 学習内容 | 主担当 教員 | 授業 方法 |
|-----|--------------------|--|-----------|----------|
| 14回 | 分娩介助技術① | 分娩介助の意義と原理の理解に基づき、分娩介助の準備について、グループ発表とディスカッションをとおして学ぶ。 | 杉山 他 | 演習 |
| 15回 | 分娩介助技術② | 分娩介助の意義と原理の理解に基づき、肛門保護・会陰保護、児娩出時の基本的手技について、グループ発表とディスカッションをとおして学ぶ。 | 杉山 他 | 演習 |
| 16回 | 分娩介助技術③ | 分娩介助の意義と原理の理解に基づき、出生直後の新生児ケア、胎盤娩出介助について、グループ発表とディスカッションをとおして学ぶ。 | 杉山 他 | 演習 |
| 17回 | 分娩介助技術④ | 分娩介助の意義と原理の理解に基づき、分娩介助の準備について、実技をとおして実際に学ぶ。 | 杉山 他 | 演習 |
| 18回 | 分娩介助技術⑤ | 分娩介助の意義と原理の理解に基づき、肛門保護・会陰保護、児娩出時の基本的手技について、実技をとおして正常分娩介助法の実際を学ぶ。 | 杉山 他 | 演習 |
| 19回 | 分娩介助技術⑥ | 分娩介助の意義と原理の理解に基づき、出生直後の新生児ケア、胎盤娩出介助について、実技をとおして正常分娩介助法の実際を学ぶ。 | 杉山 他 | 演習 |
| 20回 | 分娩介助技術⑦ | 分娩介助練習評価表に基づき、分娩介助技術のチェックを受け、評価項目の80%を達成する。 | 杉山 他 | 演習 |
| 21回 | 分娩介助技術⑧ | 分娩介助練習評価表に基づき、分娩介助技術のチェックを受け、評価項目の80%を達成する。 | 杉山 他 | 演習 |
| 22回 | 分娩介助技術⑨ | 分娩介助練習評価表に基づき、分娩介助技術のチェックを受け、評価項目の80%を達成する。 | 杉山 他 | 演習 |
| 23回 | 分娩介助技術⑩ | 既習の分娩介助技術と助産診断を関連づけ、分娩経過を踏まえた臨床判断と実践を統合し、助産師としての判断力を養う。 | 杉山 他 | 演習 |
| 24回 | 産褥期の助産診断・技術とケア① | 母乳育児支援に必要なコミュニケーションスキルを理解し、直接授乳への支援の実際を学ぶ。 | 日置 他 | 演習 |
| 25回 | 新生児期の助産診断・技術とケア① | 新生児のフィジカルイグザミネーションの実際と新生児蘇生法を学ぶ。 | 佐々木 他 | 演習 |
| 26回 | 新生児期の助産診断・技術とケア② | 新生児のフィジカルイグザミネーションの実際と新生児蘇生法を学ぶ。 | 佐々木 他 | 演習 |
| 27回 | 乳児期の母子の助産診断・技術とケア① | 4か月までの母子のアセスメントを行い、必要な支援を考える。 | 杉山 他 | 演習 |
| 28回 | 乳児期の母子の助産診断・技術とケア② | 4か月までの母子のアセスメントを行い、必要な支援を考える。 | 杉山 他 | 演習 |
| 29回 | 事例に基づいたシミュレーション演習① | 事例を用いた演習課題に取り組む。妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の技術チェックを受け、自己の課題を明確にする。 | 杉山 他 | 演習 |
| 30回 | 事例に基づいたシミュレーション演習② | 事例を用いた演習課題に取り組む。妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の技術チェックを受け、自己の課題を明確にする。 | 杉山 他 | 演習 |

学 習 課 題

| |
|--|
| 1回目課題（事前）：助産論Ⅱで学習した助産診断について振り返り、疑問点を明らかにし、文献を用いて自己学習する。 |
| 2回目課題（事前）：グループ（またはペア）ディスカッションに向け、事例の妊娠末期の助産計画を立案する。 |
| 2回目課題（事後）：グループ（またはペア）ディスカッションをもちに、事例の妊娠末期の助産計画を修正し、指定の期日までに提出する。 |
| 3回目課題（事前）：グループ（またはペア）ディスカッションに向け、事例の分娩期（初期診断）の助産計画を立案する。 |
| 3回目課題（事後）：グループ（またはペア）ディスカッションをもちに、事例の分娩期（初期診断）の助産計画を修正し、指定の期日までに提出する。 |
| 4回目課題（事前）：グループ（またはペア）ディスカッションに向け、事例の分娩期の助産計画を立案する。 |
| 4回目課題（事後）：グループ（またはペア）ディスカッションをもちに、事例の分娩期の助産計画を修正し、指定の期日までに提出する。 |
| 5回目課題（事前）：グループ（またはペア）ディスカッションに向け、事例の産褥期・新生児期の助産計画を立案する。 |
| 5回目課題（事後）：グループ（またはペア）ディスカッションをもちに、事例の産褥期・新生児期の助産計画を修正し、指定の期日までに提出する。〔2～5回事後課題・授業の取り組み：配点20%〕 |
| 6回目・7回目課題（事前）：妊婦健康診査の一連の流れと妊娠週数に応じた診察項目について整理する。 |
| 8回目課題（事前）：妊婦を対象とした集団指導の内容および方法について学習する。 |
| 9回目・10回目課題（事前）：指導案に基づき集団指導の練習を行い、指導案の修正を行う。 |
| 11回目課題（事前）：指導案に基づき集団指導の練習を行い、指導案の修正を行う。 |
| 12回目・13回目課題（事前）：産婦の健康診査の一連の流れと分娩経過に応じた診察項目について整理する。 |
| 14～16回目課題（事前）：分娩介助の準備、正常分娩介助法について学習し、分娩介助の準備から胎盤娩出直後の観察まで一連の流れを説明できるようにまとめ、指定の期日までに提出する。 |
| 17～19回目課題（事前）：分娩介助の準備、正常分娩介助法について学習し、分娩介助の準備から胎盤娩出直後の観察まで一連の流れを実践できるように整理する。 |
| 20～22回目課題（事前）：分娩介助技術のチェックで評価項目の80%を達成できるよう、分娩介助技術について反復練習を行う。 |
| 23回目課題（事前）：分娩各期における助産診断について整理する。 |
| 24回目課題（事前）：初回直接授乳を支援するための観察項目の整理および保健指導案を作成し、指定の期日までに提出する。 |
| 25回目・26回目課題（事前）：「日本版救急蘇生ガイドライン2025に基づく新生児蘇生法テキスト」を熟読しておく。 |
| 27回目・28回目課題（事前）：褥婦および新生児の2週間健診、1か月健診、4か月健診の一連の流れと観察・問診項目について整理する。 |
| 29回目・30回目課題（事前）：提示された演習課題に取り組み、技術の反復練習を行う。 |

実務経験を活かした教育の取組

| |
|--|
| ・専任教員は、看護職として実務経験がある。看護の実践および教育・研究活動を行っており、その経験を活かして本授業の講義及び演習を行う。また、非常勤講師は、医師（新生児科医）として実務に携わっており、医学の実践及び教育・研究活動の経験を活かして本授業の演習を行う。 |
|--|